

第十二師団は植木に集結

大正五年の陸軍特別大演習(2)

演習第二日(十一月十二日)の朝は快晴、微風なしと報告されています。南北両軍とも夜明け前に攻撃準備を整え、午前六時きっかりに行動を開始しました。南軍は熊本第六師団と久留米第十八師団、北軍は広島第五師団と小倉第十二師団です。

双方は鳥栖・田代付近で遭遇し、一進一退を繰り返す混戦模様で、勝敗を決しがたく、午前八時四十分、演習中止となりました。「鳥栖附近払暁戦の状況要図」には「南

軍は漸次敵を圧迫し、本郷・松崎・田代の線に進出するを得、北軍は其第一線を以て木山口・花立(城)山の線に退却するの已むを得ざるに至る」と書かれています。南軍が北軍を押し戻すというシナリオになっていたことがわかります。夜に入り、北軍は退却を開始。こうして戦線は次第に北上していくわけです。

午後七時、北軍司令官井口省吾中将は原町(粕屋町)にいました。作戦は次の通り。

里竹城山に托し、駕輿丁池、原町を経て沖附近に亘る線、駕輿丁池より右翼を新長者原、伊賀、土井を経て陣ノ越(多多良川北方)に後退する線、及右翼は之と同じくして左翼をも江辻、大隈東南側に後退する線」に陣を張るといふものです。

退却する北軍を追って、夜半、第六師団は太宰府から宇美へ(只越を通過したということ)、第十八師団は鉄道線路に沿う形で二日市から博多へと向かいました。

演習第三日に入り、

十三日午前六時、北軍の第五師団はその主力を千代ノ松原附近に、第十二師団は同じく植木(須恵町)附近に集結しました。

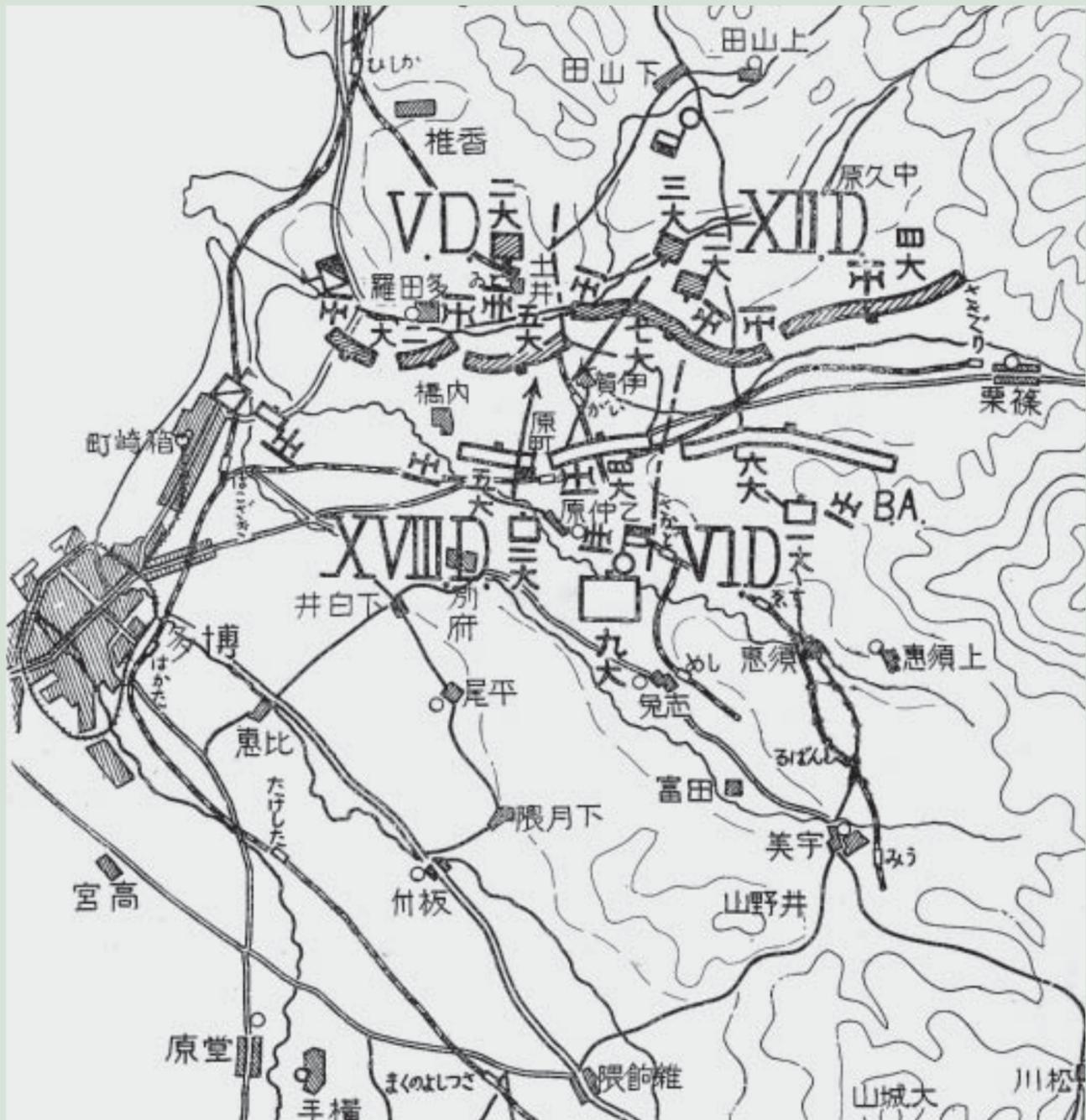
南軍は午前九時半、柳原(宇美町)方面の敵を攻撃するも撃退され、師団主力を増加してついに正午頃、敵陣地を占領しました。この時点で「其の北方上須恵附近より駕輿丁池附近に亘り更に敵の新陣地あり」と情報が入っています。飛行機による偵察の結果、敵の兵力は手薄であることがわかり、たいした抵抗も受

けず前進。南軍司令官大迫尚道大将は須恵に移りました。第六師団は乙犬、第十八師団は阿恵へと進

み、後備歩兵連隊が須恵に置かれています。南軍司令官は明十四日早朝、主力を以て新長者原以西の地区から敵を攻撃する計画を練っています。

演習第四日の十一月十四日午前七時、南軍は全線にわたり北軍への攻撃を開始し、飛行機隊は敵情を偵察、一機は北軍司令部に爆弾を投下して命中させることに成功しています(むろん、演習ですから実弾ではありませんが……)。

南軍主力は北軍主力と金出川(篠栗町)、戸原(粕屋町)附近で衝突。局地的にはたがいに敵陣を突破するなどの状況もありましたが、おおむね博多



図説明 第4日午前6時頃の配備図。須恵・上須恵・しんばるの文字が見える。VI. Dとあるのが第六師団。

湾鉄道(JR香椎線)西側では南軍が優勢、東側では北軍が優勢となつて、なかなか決着がつかなかったということ。それにしても、と思います。新原・旅石・志免の丘陵には海軍炭鉱が稼働していました。その領域を冒さぬように、南北両軍とも慎重に振る舞っていたことでしょうね。

お詫び 前回の見出しで「大正四年の陸軍特別大演習(1)」としていたのは大正五年の間違いです。訂正します。